【ノート】 大学入試研究ジャーナル第 32 号，251-257，2022

コロナ禍で変わる入試広報

――静岡大学全学入試センターの実践――

雨森 聡（静岡大学）

本稿は，新型コロナウイルス感染症の流行を受け，変更を余儀なくされた 2020 年度の入試広報が，どのように変わったか，どのような工夫をしたかについて，記録を残すこと，失敗談を共有すること，知見を提供することを目的としている。言及する入試広報は，オープンキャンパス，進学相談会・説明会，静岡県国公立 4 大学の取り組みである。2020 年度の経験より，オンラインによる入試広報においては，予約システム，マニュアルや注意喚起の文書，適切な方法の選択，大学外から見て意味のある大学間連携が重要であると筆者は考えている。

キーワード：入試広報，コロナ禍，入試広報のオンライン化，意味のある大学間連携

1 本稿の目的とねらい

筆者は以前から対面式のオープンキャンパス，入試相談会を始め，様々な入試広報をオンライン化する必要があると考えていた。このように考えていたのは，対面式の場合，高校生らが参加するのに地理的な制約を受けるというのが主たる理由であった。もちろん，地理的な制約を厭わず，例えば，北海道から静岡大学のイベントに来る高校生らもいるので，すべてをオンラインというわけではなく，オンライン化できるものはオンラインでという感覚であった。

2020 年度は，新型コロナウイルス感染症（以下，新型コロナ）の流行という地理的な制約への対応以外の要因によって，本学はもとより，多くの大学において，入試広報のオンライン化を推進することになった。本稿は 2020 年度に本学で実践した入試広報のオンライン化に関して，記録を残すこと，失敗談や苦労話を他大学と共有すること，ポストコロナ時代の入試広報に向けた知見を提供することを主な目的としている。本稿で取り扱う入試広報は，大学案内などの媒体ではなく，オープンキャンパス，進学相談会，進学説明会についてである。

2 本学のこれまでの入試広報について

2.1 オープンキャンパス

本学のオープンキャンパスは，例年，春と夏と秋に対面で実施してきた。規模は夏のものが最大で，そのあと春，秋と続く。

これまでのオープンキャンパスは，基本的には大学が決めた日に開催するものであり，その日に都合がつかない高校生らは参加できない。また，大学から遠く離れた地に住んでいる者はコストを勘案し，参加できないものであった。筆者が別の大学に所属していた頃の話になるが，7,8 年前に，オープンキャンパス当日の様子をライブ配信することと，配信内容の動画をアーカイブ化し，参加できなかった者に公開することを学内の会議で提案したことがあるが，当時はネットワーク環境もスマートフォンのカメラの性能も十分ではないなど，物理的に実現しにくい状況にあった。

本件について学内に提案した頃には，既にいくつかの大学において，オープンキャンパスのライブ配信が実施されていた（マイナビ,2014）。ただ，オープンキャンパス当日の様子をライブ配信するというのは，方法的には不可能ではないが，視聴者のニーズに応えきれない可能性がある。例えば，学部説明のような，１対多の内容は配信でも良いが，研究室見学のような少数対象のようなものは配信するにも，カメラの位置の決定や，人員や機器の用意などが非常に困難であるために，いざ配信したとしても視聴者が見たいものが見られないことになる可能性がある。このような場合，ライブで配信するのではなく，動画を撮影し，動画としてオンデマンド配信する形式なら，視聴者のニーズにも応えることができる。言い方を換えると，内容によってはライブ配信に向いているものと，オンデマンド動画に向いているものとがあるということである。本学の 2020 年度のオープンキャンパスは，オンデマンド動画による配信を中心として実施した。

2.2 進学相談会と進学説明会

進学相談会（以下，相談会）については，東京都区内，大阪市，名古屋市のような主要都市で開催されることが多く，会場近隣に在住する高校生らはその相談会に簡単に参加できるが，そうでない者は時間や交通

費のコストをかけて参加することになる。例えば，名古屋市で開催される相談会の場合，大半は愛知県内の高校生らであるが，福井県の嶺南，長野県の南信，三重県の東紀州などから参加する者もいる。このような比較的遠方からの参加者が，近隣の者よりもコストをかけて参加しているだけでなく，相談する順番が来るまで待つ姿をよく目にすることもあった。相談者のコスト削減や利便性を念頭に置き，本学では 2017 年度からオンライン相談を受けるようにした。

進学説明会（以下，説明会）は名称として相談会に似ているが，相談会は相手からの相談にもとづくのに対し，説明会は大学側が大勢の相手に説明する点で異なる。説明会は，公演型，講義型のものをイメージすると理解しやすい。

相談会や説明会は，進路選択に関するイベントを企画する企業（以下，進路情報提供企業）を主体として開催されることが多く，これまで対面式で実施されてきた。これらの会場は，コンベンションセンターなどの大会場の場合もあれば，高校の場合もある。進路情報提供企業が開催する相談会・説明会に本学は参加している。

また，本学が参画している，東海・北陸・信州地区にある 12 の国立大学からなる国立 12 大学は，例年 3 回ほど対面式の進学相談会や説明会を開催しており，本学もそれらに参加している。

2.3 静岡県にある国公立 4 大学によるイベント

浜松医科大学，静岡県立大学，静岡文化芸術大学，静岡大学という静岡県下にある 4 つの国公立大学（以下，4 大学）で，高校教員対象の入試説明会を 6 月に，対象者を問わない相談会を 11 月に対面式で開催している[1)]。

2.4 それぞれの実施月のまとめ

2020 年度までのオープンキャンパス，相談会・説明会，4 大学のイベントの実施月をまとめたのが表 1 である。

実施が最も早いのが春季オープンキャンパスである。春季は夏季のものより規模が小さいとはいえ，進路情報提供企業が企画する相談会・説明会とは異なり，自前で準備する必要がある。また，イベントを周知するチラシ作りのほか，チラシの印刷，発送と 1 ヶ月以上早くから取り掛からなければならない。

次節では，本節で示した入試広報について，どのようにオンライン対応したかを説明する。

3 本学の 2020 年度の入試広報

3.1 春季オープンキャンパス

本学の春季オープンキャンパスは，筆者が所属する全学入試センターの企画広報部門が企画し，全学で実施することになっている。春季オープンキャンパスは，例年 5 月の第 2 土曜日に開催しており，2020 年度は 5 月 9 日を予定日としていた。先述の通り，チラシの用意などで 1 ヶ月以上前から準備を始めておく必要がある。5 月に開催となると，3 月末か 4 月あたりから作業に取り掛かることになるが，新型コロナについて未知の部分が多く，筆者だけでなく，学内の多くの者も対処案が思いつかないので，中止することも検討した。さらに，政府から緊急事態宣言が発令され，東京都や大阪府周辺の地域において，4 月 7 日から 5 月

表 1　2019 年度までの入試広報の実施月のまとめ

	オープンキャンパス	進学相談会・説明会	静岡県内国公立4大学
4月			
5月	○	↑	
6月			○
7月	○		
8月	○		
9月		↓	
10月			
11月	○		○
12月			
1月			
2月			
3月			

6 日までが外出自粛期間とされた。当宣言の対象地域は徐々に拡大され，全国が対象となり，期間も 5 月末までに延長されることになった（新型コロナウイルス等感染症対策推進室（内閣官房）,2021）。対面での実施を諦め，6 月 6 日土曜日にオンラインで実施すると判断したのは 4 月上旬であったが，それ以降の感染者数の増加や政府の動向をみると，その判断は誤りではなかったと言える。

ところで，春季オープンキャンパスは簡単に中止とするわけにはいかなかった。なぜなら，例年，7 月，8 月に開催している夏季オープンキャンパスを対面で実施することは困難であると予想され，夏季より規模の小さい春季開催において，オンラインならどこまでできるかを試行し，本学の学部・学環に対し，参考事例を示しておく必要があったからである。

新型コロナ以前の春季オープンキャンパスの内容や，2020 年度の内容と変更点，ならびに問題点と改善点を示したものが表 2 である。

オンラインでの実施にあたり，2 つの問題があった。ひとつは教職員ならびに参加者の Zoom の操作の慣れ，いまひとつは人数制限のための予約システムである。Zoom の操作の慣れについては，教職員用と参加者用のマニュアルを作成し，事前に読むことを依頼した。

人数制限のための予約システムについては，当日の視聴者を無限に募集できるなら不要であるが，大学から供給された Zoom のライセンスは，ミーティングは 300 名まで，ウェビナーは不可のものであった。ミーティングの場合，マイクやカメラのオン・オフは，開催者側で統制しきれないこともあり，ウェビナーで実施するのが適切であるが，当時，筆者はウェビナーの存在を知らず，ミーティングで工夫しながら開催せざるを得なかった。300 名までとなると，余裕を持たせて 270～280 名までで事前予約を打ち切らないといけない。つまり，予約システムが必須となる。

予約システムは，本学がこれまで夏季オープンキャンパスで採用している，株式会社フロムページの OCAN s を流用した。また，Zoom のミーティング ID とパスワードの伝達は，OCAN s 経由で可能であったので，当時問題になっていた乱入者への対策もひとまず施せることになった[2]。

開催当日，教職員側はほぼ問題なかったのだが，参加者側から音声が聞こえない，画面が映らないなど，問い合わせがあった。マニュアル通りに操作すれば良いのであるが，こちらの想定通りに操作してくれないようである。これらのトラブルは基本的にこちら側で

表 2　新型コロナ以前と 2020 年度の春季オープンキャンパスの実施内容と問題点・改善点

	2019年度まで	2020年度	問題点と改善策
企画承認	3月上旬から中旬	4月上旬	
実施方法	対面式	オンライン	当日対応する教職員や参加者がZoomの操作に慣れていないと予想されるため，操作マニュアルを準備する必要があった。また，人数制限を行うための予約システムも必要であった。
実施日	5月第2土曜日	6月6日土曜日	
内容	①学部学環説明会	①動画配信とライブ配信による学部学環説明会	ライブである必要はなく，オンデマンド動画が最適。
	②個別相談会	②集団相談会	予約システムの設定を詳細に決めたり，相談時間等をコントロールしないとオンラインでの個別相談会は困難と判断し，集団相談会に変更した。ただ，集団相談会の場合，相談しにくく，また，個人的なことは発言しにくいことがわかった。以降のイベントは，予約システムの設定を詰め，個別相談会に変更。
	③学生トーク	③Zoomのミーティングを用いた学生トーク	在学生をキャンパスに集合させること自体，感染対策としては避ける必要があった。Zoomの利用自体は方法として良いが，双方向性が必要でないのでミーティングよりもウェビナーが適している。質疑応答はQ&Aなどを利用することで対応可能。

は対処の仕様がない。

終了後に，参加者に対し行った感想等のアンケートを見ると，「どの大学も実施していない中，このような機会を作ってくれたこと自体，ありがたかった」など肯定的な感想が多く見られた。ただ，「無理は承知しているのですけど，やっぱりキャンパスに行きたかった」というものも複数見られた。

想定していなかった問題点としては，こちらからのメールが届かないことが複数件生じた。これは参加者のメールアドレスの誤登録か，メールフィルターに起因することであるので，次回のイベントからはこれらが生じないように，別途説明する資料を作成するようにした。

学内からの反応として，「夏季オープンキャンパスを実施する際の参考になった」などがあり，当初想定していた夏季の前に春季で試行という狙い通りになった。

3.2 夏季オープンキャンパス

夏季オープンキャンパスを対面式で開催するのは難しいと予想されるので，オンラインでの開催を検討して欲しいと学部・学環に依頼したのは 4 月の会議であった。以降，会議の折に，他大学の状況などを伝えつつ，引き続き検討することを依頼した。

このほか，筆者はオープンキャンパスを学外に周知する方法を考える必要があった。夏季オープンキャンパスを全学的に実施することを周知するチラシ等の作成は，筆者が所属する全学入試センターと入試課が担っている。例年は，開催日と事前予約の情報を中心としたチラシを 6 月末あたりに作成し，配布するだけで良かった。しかし，2020 年度はそうはいかなかった。動画や特設サイトなどが完成するまでに想定以上の時間が必要となることがあり，チラシ作成時点で Web コンテンツの公開予定日を明示できない部局があった。つまり，チラシは作成するが，公開開始日は掲載できない状況になったのである。公開日の目安がない場合，視聴者に対し，公開されているかどうかについて，何度も Web ページを確認させることになり，これは負の印象を与えることになる。そうならないために，該当する部局は，ひとまず「8 月中旬公開」とし，チラシを作成した。

チラシ作成時に 1 つの問題が生じていた。これまでの対面実施の場合，事前予約サイトにアクセスすることを掲載すれば良かった。しかし，今回の場合，学部・学環の Web ページにアクセスする必要があるが，すべての URL や QR コードを掲載するスペースはチラシにはない。いや，それらを掲載できたとしても，見栄えが良くない。そこで必要となったのが，学部・学環の Web ページにアクセスする入り口となるポータルサイトであった。ポータルサイトへのアクセス情報 1 つをチラシに掲載すれば，見栄え的にもこれまでと変わらない。

ポータルサイトなら格安で作成できるだろうと２社に見積もり作成を依頼したところ，約 20 万円と約 150 万円の見積もりが提示された。後者は様々なオプション付きだったので機能を絞れば約 50 万円くらいなのかもしれないが，作業内容に対するこちらが想定していた金額と見積額に開きがあった。予算にかけられる費用に限りがあることから，筆者は 20 数年前に学部生時代に学んだ HTML タグを思い出しながら，簡単なポータルサイトを作成した。自前で作成すると，チラシでは「8 月中旬公開」としていた文字を公開日が決まり次第，「公開中」とこちらで自由に修正できたり，部局の特設サイトへの URL の差し替えができたり，利点もあった。

3.3 進学相談会と進学説明会

2020 年度に本学が参加する予定であった進学相談会はほとんどが中止となった。開催されたひとつが，国立 12 大学と愛知県の私立大学が連携し，愛知大学にて開催するものであった。これは例年なら，説明会と相談会のセットであったのだが，2020 年度は対面で相談会のみ実施することになった。この相談会において，以前から試してみたかった対面での相談会でのオンライン相談を実施した。

対面式の相談会に２名以上で参加する場合，２名分の旅費が発生する。大学が所在する都道府県の相談会であるなら，旅費も低くて済むが，遠方となると旅費がかさむばかりか，開催時間によっては宿泊を伴うこともあり，旅費はさらに高くなる。また，相談会は土曜日や日曜日に開催されることがある。教員なら平日の出勤時間をやりくりすることで身体を休めることができるが，入試課の職員の場合，日常業務があり，振替休日を取ることが困難になっている。これらの問題の解決策として，大学から２名以上参加する対面式の相談会において，オンラインでの相談を並行で行うことを筆者は考えていた。

対面式の相談会に大学から 1 名しか参加しない場合，オンライン相談とするには，パソコンやネットワーク環境など学外の誰かの協力を得なければならない [3]。大学から 2 名が参加する場合，1 名が会場に赴き，1 名がオンライン対応 [4]とすることが可能だと考えてい

たのだが，実践の機会が得られなかった。

2020 年度に試行した当日の準備としては，筆者自身が使用する用のパソコンと，オンライン相談対応用のパソコン 2 台，ネットワーク環境については，愛知大学のご厚意で大学のものをゲスト利用させていただいた。

筆者は対面で相談を受け，隣の机ではパソコンに向かって相談が行われるという，少し離れたところから見れば，見慣れない光景だったかもしれない。当日は相談応対者側のネットワーク切断が 1 度あっただけで，滞りなく相談は進んだ。また，相談者も違和感なく相談できていたようであった。

説明会については，4 月や 5 月に予定されていた対面式のものは中止となっていたこともあり，6 月初めに進路情報提供企業のうち，例年お世話になっている担当者に，オンラインでの実施の検討依頼と，オンラインなら本学は参加することを伝えた。ネットワーク環境が十分ではない高校もあり，すぐには説明会のオンライン化は進まなかったが，進路情報提供企業側でポケット Wi－Fi を準備するなどでオンライン対応が可能な説明会が増えてきた。

3.4 静岡県国公立 4 大学

例年 6 月に 4 大学は，静岡市，浜松市，三島市，などにおいて，高校教員対象の説明会を対面式で開催してきた。2020 年度は，高校側への周知の都合もあり，まずは 4 大学間で実施形態について 4 月末に審議し，オンラインで 6 月 24 日水曜日，25 日木曜日に実施することになった。より具体的な打ち合わせと Zoom 等の操作の確認を 5 月中旬にオンラインで行った。このオンラインの打ち合わせの際に，本学の春季オープンキャンパスの実施方法について紹介したところ，見学を希望する大学があり，それを了承した。このほか，相談会などが軒並み中止になる中，高校生らは情報不足に陥っていることを危惧して，夏休み開始までに，高校生ら対象のオンライン合同説明会・相談会を新規に企画することが決まった。

新規の企画については，実施日を 6 月 28 日日曜日，内容は各大学の 25 分間の説明のライブ配信を午前と午後に 1 回ずつと個別相談会となった。また，大学間で議論する中で，日曜日は部活等で都合がつかない生徒もいるのではという話題になり，都合がつかない人にも配慮しようと，7 月中旬から下旬にかけて，平日の放課後の時間帯にオンラインで個別相談会することが決まった。

事前準備段階において，本学の春季オープンキャンパス時に作成した参加者用のマニュアルを筆者が加筆修正し，このほか，こちらからのメールの不時着対策のために，メールフィルターの解除などを忠告する文書を作成した。また，チラシを作成し，予備校などで配布した。予備校などは，チラシを置くスペースに限りがある。1 つの大学のイベントでは地元の国公立大学などでない限り，チラシを置くのは難しいと，以前，予備校関係者から話を聞いたことがある。言い換えると，複数の大学が連携していると，予備校などもチラシを置きやすい。ただし，むやみやたらに連携すれば良いわけではなく，意味のある大学同士で連携をする必要があると筆者は考えている。

事前予約には，春季オープンキャンパス同様，株式会社フロムページの OCAN s を利用した。

開催日当日，トラブルなどの電話対応は携帯電話ひとつで筆者が対応しつつ，進行役と異常発生時の対応役を兼ねて，イベントを進めていった。春季オープンキャンパスでの経験と失敗への対策の効果か，当日電話を受けたのは 3 件で，いずれもマニュアルをきちんと読んでいないことに起因するものであった。

平日の放課後の時間帯にオンラインで個別相談会を開催する件は，「静岡県内国公立 4 大学放課後オンライン相談会」として，7 月 13 日月曜日から 28 日火曜日までのうち平日に開催した。

この放課後オンライン相談会の経験にもとづき，秋の 4 大学のオンライン相談会も滞りなく開催できた。

4 まとめと課題

2020 年度は本学に限らず，ほとんどの大学において入試広報に苦労したことだろう。2020 年度に静岡大学全学入試センターが行った実践から，新型コロナの影響で変わる入試広報のオンライン化において以下の 4 点が重要であることがわかった。

・予約システム
・マニュアルや注意喚起の文書
・適切な方法の選択
・大学外から見て意味のある大学間連携

人数制限，オンライン相談においての細かな予約受付などを実現するには予約システムが肝要である。2020 年度以前の対面での相談会が一般的であったときに，進路情報提供企業などには相談会において相談者が待たずに済むように，美容院などで用いられているような予約システムは用意できないかと提案してきたが，筆者からの提案とは無関係に，新型コロナが状況を一変しつつある。実際に，これはオンライン相談に限ってのことであるが，いくつかの企業や受験産業

はオンライン相談会に対応できる予約システムを作成し，その利用の営業を行っている。ある企業のシステムは，まずは大学側で相談時間帯をひとつひとつ設定し，相談希望者とメール等でやり取りをするなど，大学側で作業をする箇所がまだ多く，ユーザビリティが高いとは言い難いものであるので，より利用しやすいシステムと価格を巡って，今後，企業間で競争してもらえれば良いと筆者は考えている。

マニュアルや注意喚起の文書の準備は，参加者が困ることがないようにすることがそもそもの狙いであるが，参加者が困ると実施主体に問い合わせが来ることになり，結果的に大学や対応者が困ることになる。オンラインのアプリケーションに対して，高校生らが授業などで慣れてくれば，今後は利用マニュアルは不要になるかもしれない。ただ，少しでも当日のトラブルが想定されるなら，何かしらのマニュアル等を用意したほうが良いであろう。

適切な方法の選択というのは，例えば，Zoom を使用するとしても，ミーティングよりもウェビナーのほうが適している場合があることや，ライブ配信よりもオンデマンド動画のほうが適している場合があるというようなことである。オンライン説明会は双方向性を重要視しないならウェビナーの方が適しているだろう。また，大学の紹介などは，ライブ配信でなくても，オンデマンド動画化したほうが，視聴者側としても時間の制約がなくなり，都合が良いだろう。さすがに，相談会は動画化できないので，ライブでの対応になる。

大学外から見て意味のある大学間連携については，先述した通り，広報する上で，1 つの大学のものより，地域性など意味のある大学などで連携した方が，広報される側としても助かるものである。チラシの設置を予備校等に依頼した際に，「設置スペース的にも助かるし，その静岡の 4 大学なら志望する者も多いので，置くのはかまわない」と先方の担当者からコメントがあった。

さて，新型コロナによって，2020 年度の入試広報は大きく変わることになったが，2021 年度以降はどうなるだろうか。たとえば，進路情報提供企業などの 2021 年度実施分の相談会の企画を見てみると，対面式に回帰するものや，対面式とオンラインを併用するものが見られる。進路情報提供企業が企画・運営するイベントで対面式とオンラインを併用する場合，ネットワーク環境，パソコンの準備，相談者の列の整理やトラブル対応のための人材などは，有償対応になるだろう。大学側にとっては，選択肢が増えることや，移動コストが不要となることは喜ばしいが，別の経費が必要となるのは悩ましいことである。また，併用の場合，オンライン相談が周りの雑音で妨げられないかも問題となる。

受験産業がオンラインのみの説明会・相談会を企画・実施する例も 2020 年度に見られた。2020 年度の当イベントは試行的な位置づけということもあり，登録費や参加費などを無料，もしくは低価格であったかもしれないが，2021 年度以降は有料化していき，収益化が進められるだろう。つまり，大学側は新たな有料サービスに加入するかどうかを判断することが求められることになる。便利になる反面，新たなコストがかかるのは仕方ないが，どのサービスを選ぶかは大学のセンスが問われることになる。

ところで，入試広報のオンライン化が進むことについて，危惧していることが 1 つある。それは，対面式の相談会・説明会の場合，同じ会場に参加している他の大学のついでに自大学の話を聞いたり，相談をしたりする高校生らが，オンライン化によって少なくなる可能性があることである。本学の場合，愛知県での対面式の相談会・説明会であるならば，名古屋大学や名古屋工業大学が参加しているかどうかは重要である。同じようなことは，多くの大学でも検討されているであろう。このついでに寄るというのは，オンラインでは起きにくいのではないかと筆者は推測している。オンラインの相談会・説明会でも，参加大学一覧や，説明会なら何時からどの大学が話をするのかがわかる時間割などがホームページに掲載されるだろう。しかし，オンラインの場合，説明を聞いたり，相談したりするには，人数制限の問題があるために，おそらく事前予約が必要となるだろう。そうなると，参加者は同じイベント内とはいえ，大学ごとに事前予約が必要となる。この手間と，対面式のときにふらっと寄る手間とでは，参加者側の感覚では差があるのではと筆者は考えている。

本稿では，コロナ禍によって変わることになった入試広報について本学の事例を紹介してきた。いまだコロナ禍にあるが，平時になったとしても，以前のように対面式が主の入試広報に戻ることはなく，コロナ禍で得た知見をもとに，対面式を実施しつつ，オンライン式のものも並行して実施されると予想される。

さらには，対面式とオンライン式のどちらかだけでなく，ハイブリッド，ハイフレックスのように同時併用もこれからの入試広報の方法として採り得るものである [5]。これからの入試広報が実際にどうなるかを見ながら，今後の入試広報の在り方について検討を進めたい。

注

1）当組織を築き上げたのは，筆者の前任者である寺下榮先生や村松毅先生らである。筆者が着任する前に，寺下先生らがこのような組織を作り，運営されていたおかげで，意味のある連携を進めることが可能となった。大学の連携は，本文中で触れた国立 12 大学のように，地域性や一般選抜前期日程，後期日程の組み合わせの可能性などが念頭に置かれていないと，烏合の衆の感が拭えない。コンセプトがない集団のイベントは，進路情報提供企業が開催するものと大差はなく，いまいちだと筆者は考えている。

2）たとえば，香川大学では 2020 年 4 月に Zoom を用いて新入生ガイダンスを実施していたところ，何者かがその場に侵入し，パソコンの画面上に，フランス語や性的画像が表示されることがあった（朝日新聞デジタル, 2020）。

3）2021 年度に開催する進路情報提供企業が開催する対面式の相談会において，オンライン対応は可能となりつつあるが，追加料金での対応となっているものがある。追加料金となる要素である，パソコンやポケット Wi－Fi の準備や接続の確認などを，大学間で協力し合っても良いのではと筆者は考えている。

4）以前は旅費節約を考えてのことであったが，2020 年度は新型コロナへの感染リスクを下げることを考えていた。筆者が所属する静岡大学全学入試センターで入試広報を担当する者の大半が感染時の重症化リスクが高い 60 代であるので，彼らが感染しないよう配慮したのも，この試行のきっかけになっている。

5）2020 年度の反省や，キャンパスを訪問したいという高校生らのニーズをもとに，2021 年度の春季オープンキャンパスは，対面とオンラインのハイブリッドで 5 月に開催した。

参考文献

朝日新聞デジタル (2020). 「突然、性的画像が画面に…Zoom 爆撃、香川大でも被害」 https://www.asahi.com/articles/ASN4Y75MGN4WPTLC017.html（2021年11月30日）.

マイナビ (2014.). 「ニコニコが、早稲田・立命館など全国15大学のオープンキャンパスを生中継!」 https://news.mynavi.jp/article/20140716-a106/ （2021 年 112月24日）.

新型コロナウイルス等感染症対策推進室（内閣官房） (2021). 「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の概要」 https://corona.go.jp/news/news_20200421_70.html（2021年11月30日）.